

御挨拶

京都大学での第54回全国大会は成功裏に終了しました。平田昌司教授はじめ京大のスタッフの皆様、また理事、各種委員、司会、査読等、様々な形でご協力をいただいた皆様、そして参加者の皆様に改めてお礼を申し上げます。

大会のご挨拶で申し上げたことを簡単に繰り返させていただきます。

現在、学会という組織を取り巻く環境はますます厳しくなっております。一つには国立大学の法人化という事態があり、また来年10月からは日本学術会議の運営が大幅に変わります。外的環境の変化に即応できる学会のシステム構築と基盤強化が求められています。このような観点から、本年は主に国際化と情報化に関わる諸提案を行い、幸い理事会、総会にてご承認をいただきました。国際化について、本会はすでに多数の外国籍会員を擁しておりますが、「海外会員制度」によって、さらに他学会にない特色をもつことになると思います。また「ネット会員制度」は、ホームページを活用し、紙媒体による情報提供を減らしていくための施策ですが、特に院生会員、支部活動が開催されない地区の会員等、ご利用下さるようご案内致します(手続き方法は最終頁の「お知らせ」をご参照下さい)。

引き続き、来年の大会に向けて、役員組織、事務体制の見直しと会則の全面改訂に向けて作業、討論を進めてまいります。理事会による検討を経て、次号のニューズレター(2005年5月発行予定)にて改革の全容を会員にお示しし、幅広い議論に発展させていきたいと考えております。皆様のご協力をお願いします。

組織・運営の改革の先には、本会の学術レベルの向上がなくてはなりません。大学間の競争の時代を迎えた今日、学会や研究会を通じて、同じ領域の研究者が所属機関を超えて横の連携を強化することは、日本全体の学術水準向上のために従来以上に重要になってきていると申せましょう。

最後に、これは春のニューズレターでも述べたことですが、本会は極めて多様な会員によって構成されています。裾野の広がりは今後も継承すべき長所です。しかし年1回の全国大会開催と会誌の発行、限定された地域での支部例会の開催だけでは、幅広い会員のニーズに必ずしも十分に応えるものとはなっておりません。私達執行部の時間と力には限りがありますので、魅力的な会の運営のために、会員諸氏のお知恵を貸していただきたくお願い申し上げます。

2004年11月21日 日本中国語学会理事長 岩田 礼

会則改正のお知らせ (2004年11月6日総会承認)

1. 日本中国語学会の英文名の変更

(旧) The Chinese Language Society of Japan

(新) The Chinese Linguistic Society of Japan

2. 海外会員に関して「会費納入に関する内規」の一部改正 (2005年度より適用)

(旧)

本会の通常会員及び賛助会員には毎年年度初めに所定の方法により会費を納入するものとする。

2年を超えて会費の納入がない場合は、当該会員に連絡の上、除籍とする。

海外在住の会員は会費の納入について日本国内に連絡先を定めるか、あるいは日本国内で受領可能な方法で海外からの会費を納入する。後者の方法による場合は、会費の納入があった年度のみ会誌の発送および諸連絡を行うものとする。

(新)

1) 本会の通常会員及び賛助会員には毎年年度初めに所定の方法により会費を納入するものとする。

2) 2年を超えて会費の納入がない場合は、当該会員に連絡の上、除籍とする。

3) 海外在住の研究者が入会を希望する場合は、学会ホームページより申込書をダウンロードし、必要事項記入の上、学会事務局に郵便又はファックスで送付する。電子メールでの申し込みは受け付けない。会費は、本会が指定する方法により納入する。但し、日本国内に連絡先を定める場合は、通常会員と同様の方法によって納入することができる。海外在住の会員は、『中国語学』及び会員名簿を受け取る権利を有するが、選挙権は有さない。また必要な情報は学会ホームページによって得るものとし、ニューズレター、支部例会通知等事務関係文書は郵送しない。

(下線部追加)

3. 特別編集委員制度に関して『中国語学』編集委員・査読委員選出委嘱に関する内規の一部改正 (2005年度より適用)

(旧)

編集委員の改選は、編集委員会及び常任理事会の合同会議において行い、会員の中より5名を選出し理事長が委嘱する。編集委員長は、編集委員による互選とする。編集委員長及び委員の任期は年次大会終了以後翌々年度大会終了までの2年とし、重任することができる。編集委員は査読委員を兼務することができる。査読委員は会員の中から選出することを基本とするが、投稿論文によっては会員以外の専門家に査読を依頼することがある。なお、査読委員の氏名は公表しない。編集委員会は『中国語学』編集に関する会務を掌るが、編集にかかわる実務を事務局に委託することができる。 (下線部削除)

(新)

- 1) 編集委員の改選は、編集委員会及び常任理事会の合同会議において行い、会員の中より5名を選出し理事長が委嘱する。
- 2) 編集委員長は、編集委員による互選とする。
- 3) 編集委員長及び委員の任期は年次大会終了以後翌々年度大会終了までの2年とし、重任することができる。
- 4) 査読委員は会員の中から選出することを基本とするが、投稿論文によっては会員以外の専門家に査読を依頼することがある。査読委員の氏名は公表しない。編集委員は査読委員を兼務することができる。
- 5) 常任理事会と編集委員会は『中国語学』編集に関する学術的サポートを得るため、海外の専門家5名を特別編集委員として選出し、理事長が委嘱する。特別編集委員は『中国語学』編集に関する学術的サポートのみに与り、編集委員長の選出及び編集に関する会務、実務には関わらない。特別編集委員の任期は2年とし、重任することができる。

(下線部追加)

4. ネット会員制度に関して「会費納入に関する特別規定」の新設 (2005年度より適用)

- 1) 当面の措置として、「ネット会員制度」を設ける。通常会員のうち、必要な情報を学会ホームページによって取得する会員を「ネット会員」と呼び、会費を1,000円割引する。この優遇措置は、海外会員には適用されない。ネット会員には、『中国語学』、会員名簿及び会費請求以外の文書(ニューズレター、支部例会通知等)を郵送しない。
- 2) 希望する会員は、学会ホームページより申込書をダウンロードし、必要事項記入の上、学会事務局に郵便又はファックスで送付する。電子メールでの申し込みは受け付けない。「ネット会員」の認定は理事長の監督の下で事務局が行う。
- 3) 2004年末までに入会済みの会員は、以降毎年1月1日～3月20日の期間に、翌年度の「ネット会員」の申し込み又は廃止を申請することができる(一度申請すれば、廃止申請をするまで有効)。期間以外の申し込みは受け付けない。2005年1月1日以降の新入会員については、入会時に「ネット会員」に申請することができる(但し海外会員は除く)。
[なお、この措置は継続の適否も含め3年後に見直しを行うこととする。]

■その他、会の運営等に関する提案■ (2004年11月6日総会承認)

1. 支部活動活性化に関して

- 1) 支部例会をお世話いただいている幹事(世話人)に対して、負担を考慮して、今年度(2004年度)より1回当たり3,000円の「活動費」を支給する。
- 2) 東海支部から、支部活動活性化の方策として、他支部の講師を招いて講演会・シンポジウムを行ないたいとの要望があり、同支部のこれまでの積極的な取り組みに鑑み、とりあえず2004年度に限り予算措置をする。

3) 支部例会の案内等はできるだけ学会ホームページを活用することとする。

2. 全国大会開催校の公募制に関して（2005年度より適用）

従来、全国大会開催校は、理事長が適当な機関に依頼する形で決定されてきたが、今後は次のような公募制をとることとする。

- (1) 全国大会開催を希望する大学・研究機関は、前年度の4月1日から6月30日の間に、理事長にその意思を伝達する。理事長は7月末日までに回答する。
- (2) 複数の立候補があった場合は、理事長が常任理事会に諮りながら、地域性*、過去における開催の有無、会議実施のための設備の状況等を考慮して、公平に決定する。

*従来、関東地区/他地区の輪番で実施されてきた。この慣習は尊重することとするが、絶対条件とはしない。

- (3) 立候補がない場合は、理事長が常任理事会と協議の上、適当と認める機関に依頼する。

3. 東洋学（アジア研究）連絡協議会への参加

学術会議の運営方法が来年10月より大幅に変更となり、語学文学研究連絡委員会を含むすべての研究連絡委員会が来年9月末に廃止されることとなった。この事態を受け、「東洋学研連」、「東方学会」のイニシアチブによって、きたる12月11日に表記の協議会設立大会が開催されることになった。日本中国語学会は、学術団体登録を果たしてから間もなく、他学会との連携も十分ではない。大きく変動する状況に対処するために、同連絡協議会に正式に参加し、情報収集と他学会との連携を図ることとする。

■2004年度理事会・総会報告（11月6日京都大学時計台記念館）

I. 報告事項

①会務報告

1. 会員動向

（2004年11月4日現在）総会員数 1,164 名（うち顧問 3 名，名誉会員 25 名，通常会員 1,136 名）。賛助会員 21 社。* 除籍者数(11月7日で確定)を含まず。

2. 退任理事に関する報告

何治濱氏（東北支部），千島英一氏（関東支部），小林立氏（四国支部），中村雅之氏（北陸支部），平井勝利氏（東海支部），方経民氏（四国支部：ご逝去）の各理事が退任。平井勝利氏に代わり丸尾誠氏が理事に就任。

3. 『中国語学』251号，2004年11月6日発行，発行部数 1,500 部。

4. 『中国語学』251号より ISSN を記した。

②編集委員会報告

1. 編集委員のうち，荒川清秀委員長，遠藤光暁委員，佐藤進委員が任期満了により退任。

これにともない，大西克也氏，ラマール氏，沈国威氏が新編集委員に就任。委員の互選により，杉村博文氏を新編集委員長に選出。

2. 第5回学会奨励賞：東ヶ崎祐一氏『説文解字繫伝』にみられる反切下字混用一梗撰

入声と曾撰入声，および外転一等韻と二等韻の間のー」

卢建氏「摹物状语的引申及主观化渠道」

II. 審議事項

【1】内規に関わる改正

①日本中国語学会の英文名の変更（→「会則改正のお知らせ」1を参照）

②海外会員に関して「会費納入に関する内規」の一部改正（→「会則改正のお知らせ」2を参照）

③特別編集委員制度に関して『中国語学』編集委員・査読委員選出委嘱に関する内規の一部改正（→「会則改正のお知らせ」3を参照）

④ネット会員制度に関して「会費納入に関する特別規定」の新設（→「会則改正のお知らせ」4を参照）

⑤執筆要領及び投稿規程の一部改正（資料1参照）

提案された改正案について，字句の訂正が必要な箇所が指摘されたため，編集委員会がそれらを検討・修正の上，ニューズレターに掲載し，会員の承認を求めることとなった。

【2】予算に関わる事項

①2003年度会計決算の件（資料2参照）

②2004年度補正予算案の件（資料3参照）

③2005 年度予算案の件（資料 4 参照）

【3】その他の事項

①支部活動の活性化について（→「その他、会の運営等に関する提案」1 を参照）

なお、従来東海支部であった長野県は、交通事情の変化を考慮し、2005 年度からは、関東支部に属するものとする。その他の支部についても今後検討していく。

②全国大会開催校の公募制について（→「その他、会の運営等に関する提案」2 を参照）

【4】次期開催校の件（筑波大学 2005 年 10 月 29, 30 日を予定）

【5】顧問・名誉会員推挙の件

顧問に鳥井克之氏が推挙され了承された。名誉会員に中山時子氏、横山宏氏、今泉潤太郎氏、傳田章氏の 4 名が推挙され了承された。

■ウェブリソース委員会(準備会)

11 月 7 日京都大学文学部

[出席者:岩田理事長, 山田幹事, 中川前理事長, 小野前幹事, 澤田前幹事, 山崎直樹氏, 沈国威氏, 遠藤雅裕氏]

当委員会は、昨年度早稲田大学における検討会の意見を踏まえ中川前理事長が、準備会の委員として山崎直樹氏、沈国威氏、遠藤雅裕氏に出席を依頼したものであり、以下の事項について協議された。

1. 委員会の名称は「ウェブリソース委員会」「ネットワーク資源委員会」とし、ホームページの維持管理など電子媒体に関わる問題について協議する。
2. 来年度の正式発足に向け、準備会が事務局と連絡を図りながら内規などの検討を行う。
3. 準備会のメンバーは山崎直樹氏(代表)、沈国威氏、遠藤雅裕氏とする。

* なお同委員会と事務局とのその後の話し合いにより、準備会段階においては、ホームページの管理権限を従来通り事務局に置くことになりました。現在のホームページに関する誤りなどは、事務局にご連絡下さい。

●会費未納による除籍者●(「会費納入に関する内規」による)

40名 (氏名略)

* 除籍になった元会員が会への復帰を希望する場合は、「未納分会費を納める」ことを条件に、復帰を認めております(扱いは「新入会員」になります)。お近くに希望者がおられましたら、事務局への連絡をお勧め下さい。

(資料1) 執筆要領及び投稿規程の一部改正

[会員の皆様へ]

本改正につきましては、第54回全国大会の理事会・総会において基本的に承認されましたが、字句の訂正が必要な箇所が指摘されたため、編集委員会がそれらを検討・修正の上、本ニューズレターにおいて再提案することになったものです。ご意見がございましたら、12月24日までに事務局までご連絡下さい。海外会員制度、特別編集委員制度の発足に伴い、英訳・中訳を作成する必要があり、時間的な余裕がございませんが、どうぞご理解いただきますようお願いいたします。なお英訳・中訳については、2月初旬を目処にホームページに掲載します。

『中国語学』投稿原稿執筆要領案 (2004年11月)

投稿原稿の使用言語は、日本語、中国語、英語のいずれかを原則とする。本文、サマリー、タイトルのいかなを問わず、執筆者の母語以外で書いた部分については、信頼できる母語話者の校閲を経たものでなければならない。

日本語による執筆要領

1. 投稿用紙ならびに制限枚数：A4版用紙に1行40字詰め30行のフォーマットでプリントアウトし、表紙を含めて合計枚数18枚以内とする。図表のある場合は大きさを指定し、それを含めて18枚以内におさまるようにする。
2. 日本語、中国語などのローマ字化：日本語はヘボン式（長母音はei以外は字母をかさねる）、中国語はピンインを原則とする。その他の非アルファベット系字母は特別な必要がない限りローマ字転写する。
3. 論文原稿の順序および体裁：
 - 1枚目（表紙）
 - (1) 研究論文、資料、書評・紹介の種別を明記する。
 - (2) 論文タイトル（英語訳を併記）
 - (3) 執筆者名（ローマ字表記を併記）、所属機関（無い場合は「無し」と明記）、連絡先（住所、郵便番号、電話番号、電子メールアドレスを明記）
 - 2枚目以降
 - (1) 論文タイトル
 - (2) サマリー（中国語300字以内、あるいは英語100語以内に収める）
 - (3) キーワード（3個以上5個まで、サマリーと同言語を用いる）

(4) 論文本文

- ・紙面下中央にページ番号をつける。
- ・執筆者名，所属機関名を書いてはならない。
- ・謝辞のたぐいを書いてはならない。印刷初校段階において，制限枚数の許す範囲内で加えてよい。

(5) 原稿の種別を問わず，注は半角アラビア数字を用いて通し番号とし本文末尾に置く。注番号は1字分の肩に半カッコを付して³⁾のようにつける。注及び注番号のポイントは本文と同じものを用いる。

(6) 参考文献は，本文または注において引用ないし言及されたもののみを日本語文献，中国語文献，欧文献にグルーピングした上で，下記の体裁に準じてアルファベット順に記載する。ポイントは本文と同じものを用いる。

参考文献

平山久雄 2000 「「給」の来源——「過与」説に寄せて」，『中国語学』247：56-70 頁。

太田辰夫 1958 『中国語歴史文法』。京都：江南書院。

方经民 2003 「現代汉语空间方位参照系統認知研究」，博士学位論文，中国：上海师范大学。

吕叔湘 1992 「理论研究 and 用法研究」，中国語文杂志社編『语法研究和探索（六）』：1-3 頁。
北京：語文出版社。

潘悟云 2001 「反切行為与反切原則」，『中国語文』2001 年第 1 期：99-111 頁。

Hashimoto, Mantaro. 1986. The Altaicization of Northern Chinese. In John McCoy and Timothy Light (eds.), *Contributions to Sino-Tibetan Studies* (Cornell Linguistics Contributions). Leiden: E. J. Brill. 76-97.

Norman, Jerry. 1988. *Chinese*. Cambridge: Cambridge University Press.

Postal, Paul. 1970. On the Surface Verb "remind". *Linguistic Inquiry* 1: 37-120.

Sag, Ivan. 1976. *Deletion and Logical Form*. Ph.D. diss., MIT, Cambridge, Massachusetts.

- ・同一著者による同一年の論著は，潘悟云 2001a，潘悟云 2001b のように区別する。
- ・本文や注の中で参考文献に言及するときは，太田 1958:21-25 のように指示する。参考文献の著者が中国人である場合は姓名を記し，他は特別な場合を除き姓のみを記す。欧文献で同姓の著者は，ファーストネームのイニシャルで W. Simon, H. Simon のように区別する。

4. 引用例の出典：史的文献からの引用例には，版本とページを明記する。現代語からの引用例は，出典の明記を特には求めないが，論証のキーとなる用例には出典を明記することが望ましい。また，執筆者による作例は信頼できる母語話者の校閲を経たものでなければならない。例文番号および括弧には半角を使用する。

5. 引用例の訳文：引用例には訳文を付す。文学作品等から引用された用例で長いものは，

論証に不可欠と思われる箇所の下線を引き、その箇所の訳文のみを付す。

『中国語学』投稿規程案（2004年11月）

1. 投稿者は編集委員会が特に委嘱する場合を除き、前年12月までに入会している会員に限る。
2. 投稿原稿は未公開で、他誌に投稿中でないものに限る。
3. 投稿は郵送もしくは宅配便によるものとし、消印・宅配受領印の日付が2月20日以降3月10日以前であること。封筒表面に「中国語学原稿在中」と朱書きし、編集委員長宛に表紙を含む原稿1部と表紙を除いた原稿3部を送付する（宛先はニューズレター、ホームページを参照）。直接持参しても受理されない。
4. 投稿原稿の採否は編集委員会が決定する。編集委員会は投稿原稿が扱う領域の研究者（非会員を含む）を査読委員として選び、評価を委嘱する。採否の結果は6月上旬までに投稿者に通知する。
5. 採用および条件採用の原稿については、修正原稿を編集委員会が定める期日までに編集委員長宛に送付する。条件採用の原稿については、原則として条件を提示した査読委員が修正原稿を再審査し、審査結果次第で採用の取り消しもありうる。不採用原稿については、通知後2週間以内に投稿者から要求があった場合に限り、査読委員の講評を伝える。原稿は原則として採否にかかわらず返却しない。
6. 採用原稿は、編集委員会が定める期日までにプリントアウトした原稿2部を送付し、原稿のワープロファイルを電子メールの添付ファイルあるいはフロッピーで提出する（宛先はニューズレター、ホームページを参照）。ファイル名は「bclsj_著者氏名. 拡張子」の形式で、著者氏名の表記にはローマ字を用いる（例：bclsj_Fujimoto Yayoi.doc）。
7. 印刷に当たり、特殊活字や図版の作成のため、あるいは校正段階での書き直しのため、額外の費用を要した場合、投稿者にその費用の負担をもとめることがある。校正段階での書き直しは、原則として認めない。
8. 原稿料は支払わない。抜刷30部を無料進呈する。抜刷は実費を負担すれば増刷することができる。
9. 原稿作成に関しては別途定める「『中国語学』執筆要領」を厳守すること。

** 『中国語学』投稿宛先

〒562-8558

箕面市粟生間谷東8-1-1

大阪外国語大学 地域文化学科（中国語） 杉村研究室

電話：072-730-5243

(資料2) 日本中国語学会 2003 年度会計決算 (2003 年 4 月～2004 年 3 月)

2004 年 11 月 6 日総会承認

<収入>

	予 算	決 算
前年度繰越金	8,020,641	8,020,641
(定期郵便貯金累計利息 687,886 円を含む)		
通常会員会費収入	4,500,000	5,200,540
賛助会員会費収入	570,000	567,660
『中国語学』売上金	531,375	531,375
印税	40,000	37,000
通常貯金利子 (03/4～04/3)		62
定期郵便貯金利息(03/4～04/3)		21,876
計	13,662,016	14,379,154

<支出>

	予 算	決 算
会誌印刷費	2,800,000	2,493,120
大会助成費	700,000	700,000
支部活動助成費	430,000	417,080
通信費	550,000	367,251
事務費	750,000	576,556
事務局費	600,000	600,000
編集局費	100,000	100,000
旅費交通費	550,000	554,780
会議費等雑費	100,000	91,643
学会奨励費	100,000	100,000
次年度繰越金	6,982,016	8,378,724
(定期郵便貯金累計利息 1,204 円を含む)		
計	13,662,016	14,379,154

監査の結果、経理内容は適正であり、会計諸表は的確に処理されていることを認めます。

2004 年 9 月 18 日

2003 年度会計監査 原 由起子
2003 年度会計監査 森 宏子

(資料3) 日本中国語学会 2004 年度補正予算 (2004 年 4 月～2005 年 3 月)

2004 年 11 月 6 日総会承認

<収入>		<支出>	
前年度繰越金	8,378,724	会誌印刷費	2,300,000
(定期郵便貯金累計利息 1,204 円を含む)		名簿印刷費	550,000
通常会員会費収入	5,400,000	大会助成費	750,000
賛助会員会費収入	500,000	支部活動助成費	500,000
『中国語学』売上金	480,375	通信費	650,000
印税	40,000	事務費	850,000
計	14,799,099	事務局費	600,000
		編集局費	120,000
		旅費交通費	800,000
		会議費等雑費	120,000
		学会奨励賞	100,000
		ホームページ関係経費	300,000
		積立金	4,000,000
		[内訳]	
		記念大会積立金 (50 万)	
		事務委託関係積立金(150 万)	
		英文・中文ホームページ構築	
		積立金(100 万)	
		国際会議開催支援積立金(50 万)	
		名簿作成費積立金(50 万)	
		予備費	3,159,099
		計	14,799,099

(資料4) 日本中国語学会 2005 年度予算 (2005 年 4 月～2006 年 3 月)

2004 年 11 月 6 日総会承認

<収入>		<支出>	
前年度繰越金	3,159,099	会誌印刷費	2,800,000
(定期郵便貯金累計利息約 1,200 円を含む)		大会助成費	750,000
積立からの繰入金	4,000,000	支部活動助成費	500,000
通常会員会費収入	5,400,000	通信費	700,000
賛助会員会費収入	500,000	事務費	900,000
『中国語学』売上金	450,000	事務局費	650,000
<hr/>		編集局費	120,000
計	13,509,099	ホームページ関係経費	300,000
		旅費交通費	900,000
		会議費等雑費	120,000
		学会奨励賞	100,000
		選挙関連費	100,000
		積立金	3,500,000
		[内訳]	
		記念大会積立金 (50 万)	
		事務委託関係積立金(150 万)	
		英文・中文ホームページ構築	
		積立金(50 万)	
		国際会議開催支援積立金(50 万)	
		名簿作成費積立金(50 万)	
		予備費	2,069,099
		<hr/>	
		計	13,509,099

事務局からのお知らせ

●お詫びと訂正●

・事務局の勝手により、以下の会員について、「会員名簿」への記載漏れが生じてしまいました。ここに記してお詫び申し上げます。

與久田みどり氏（姫路独協大学大学院）、吳淑圓氏（名古屋大学大学院生）。

・「会員名簿」に誤記がありました。お詫びして訂正いたします。正誤表を同封いたしましたので、ご確認いただきたくお願い申し上げます。なお、同様の誤りがありましたら、事務局までお知らせください。

●現会員数●

理事会及び総会では、大会前々日時点での数字を報告しましたが(p.5 参照)、その後、内規に基づく除籍者を確定したこと、総会において新顧問、新名誉会員が推挙、承認されたこと等により、2004年11月19日現在の確定数字は次の通りです：

総会員数 1,131 名（うち顧問 4 名、名誉会員 29 名、通常会員 1,098 名）；賛助会員 19 社。

昨年度大会以降の変動は、次の通りです：

新入会員 57 名、退会者 24 名、除籍個人会員 40 名、ご逝去 6 名；除籍賛助会員 2 社。

●関東支部の会員の方へ●

前支部幹事のご努力により、電子メールによる例会案内の通知を進めていただいておりますが、セキュリティ(ウイルス対策)の観点からホームページの活用を推進する方針となりましたので、メール配信は廃止させていただきます。ご理解いただきますようお願いいたします。

●長野県の会員の方へ●

従来、支部の所属は「東海支部」となっておりましたが、新年度より「関東支部」に所属が変更となります。これにより、関東支部例会の通知が送られることとなります(「ネット会員」は除く)。従来通りの「東海支部」をご希望の会員は事務局までご連絡下さい。

●予稿集の販売●

『中国語学会第 54 回全国大会予稿集』(1575 円)は、少部数のみ在庫があります。入手ご希望の方は、下記の書店までお問い合わせください。品切れの場合は、ご容赦ください。

〒606-8311 京都市左京区吉田神楽岡町8 朋友書店

TEL 075-761-1285 FAX 075-761-8150 hoyu@hoyubook.co.jp

(第 54 回全国大会準備会より)

第 55 回全国大会のお知らせ

2005 年 10 月 29・30 日、筑波大学にて開催いたします。来年秋には、新しい鉄道「つくばエクスプレス」が開通し、東京からのアクセスも便利になります。どうぞ奮ってご参加ください。詳しいご案内は、5月中旬頃お送りする予定です。

研究発表応募規定

1. 研究発表の申し込みは本学会会員に限る(応募時に会員であり、予稿集原稿の寄稿時までに当該年度までの会費を納付していること)。ひとりの会員が、複数の発表の筆頭発表者となつて申し込みをすることはできない。
2. 他学会で正式に発表したもの及び応募中のものを二重に申し込むことはできない。
3. 使用言語は、日本語・中国語を原則とする。
4. 発表希望者は、発表要旨を大会準備委員会あてに郵送もしくは宅配便により送付する。持参されたものは受理しない。申し込み締め切りは6月30日(国内郵便局消印・宅配受領印有効)とする。
5. 発表要旨は、以下の要領にしたがつて、(A)発表申込者原簿を1部、(B)審査用要旨を3部提出する。
(A) 発表申込者原簿(A4 判用紙1枚、1部提出)。
発表題目・氏名・住所・所属機関・職または身分(教授、院生、非常勤講師等)・連絡先(電話・e-mail・ファックス)・発表希望部会(文法語彙・文字音韻方言・教育法開発)、ある場合は、研究発表歴(最近3年間の主要な口頭発表、論文題目(投稿中も含む)・掲載誌)を記す。
(B) 審査用要旨(A4 判用紙 1 枚、3 部提出)。
発表題目、要旨本文(題目の字数を含めず、日本語・中国語で 1200 字 以内、40 字×30 行)のみを 10.5 ポイント以上のフォントで印刷する。図表がある場合も、上記の分量内に収めるものとする。審査用要旨に氏名や所属は書かない。また、要旨本文中に、執筆者名が特定できるような表現を用いること及び特定の個人への謝辞を記すことは、避ける。
6. 常任理事会と協議の上で、大会準備委員会が採否を決定する。結果は7月31日までに郵送で通知し、学会ホームページ上に採択された発表者の氏名・発表題目を公表する。
7. 研究発表が採択された場合は、大会準備委員会の指定する期日(国内郵便局消印・宅配受領印有効)までに、大会準備委員会あて、予稿集原稿プリント(A4 判5ページ以内厳守。別に詳しい規定を定める)を郵送もしくは宅配便で提出する。大会準備委員会は必要に応じて電子テキストの提出を求めることがある。
8. 発表日時については、大会準備委員会が決定する。
9. 予稿集掲載論文は正規の研究論文とは見なされないので、引用・言及にあたっては事前に発表者の了解を得るなど、相互に細心の注意を払うこととする。発表者自身が転載することに関しては、本学会大会発表論文であることを明記する限りにおいて、これを妨げない。

(筑波大学・第55回全国大会準備会)

2004 年度会費（6,000 円）納入のお願い

会費未納の方には、振替用紙を同封しております。本年度会費（6,000 円）を最寄りの郵便局からお振込下さい。事務運営上、2004 年 12 月 20 日までにご入金くださるよう御協力をお願い致します。

郵便振替 加入者名：日本中国語学会

口座番号：00120-2-536256

訃 報

方経民理事(四国支部)は、本年 9 月 7 日、上海において交通事故によりご逝去されました。本会並びに斯界に対する生前のご尽力に感謝し、ここに特記して衷心よりご冥福をお祈り致します。

ネット会員制度のお知らせ

1. 表記の特別制度が新年度(2005年度)より発足することに伴い、来る2005年1月1日～3月20日の期間に、申し込みを受け付けます。この期間以外の申し込みは認められませんので、ご留意下さい。
2. ネット会員は、会費1,000円の割引を受けることができます。2005年度の会費請求の際、請求額が5,000円になります。但し2004年度の会費については適用されません。
3. ネット会員には、2005年4月よりニューズレター及び支部例会通知が郵送されませんので、ホームページによって必要な情報をチェックしていただくようお願いいたします。全国大会開催に関する大会案内(5月)及びプログラム(9月)につきましては、本来、郵送しないことが趣旨でしたが、2005年度は開催校の筑波大学にネット会員も含めて全会員への郵送をお願いしております。
4. ネット会員を希望する会員は、学会ホームページから申込書をダウンロードし、必要事項記入の上、学会事務局に郵便又はファックスで送付して下さい。電子メールでの申し込みは受け付けません。

日本中国語学会事務局

〒920-0918 金沢市尾山町 5-11

TEL/FAX : 076-264-9232

E-mail : clsj@mail.goo.ne.jp

URL : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/clsj/index.html>